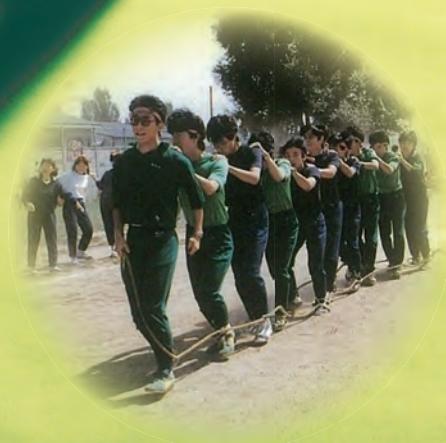
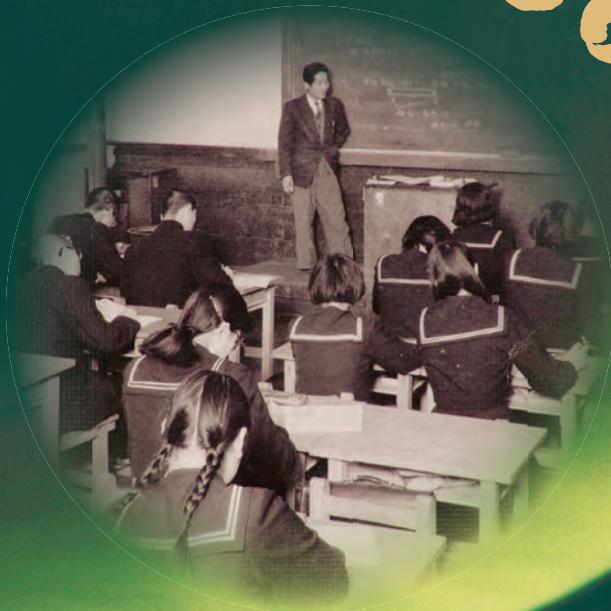
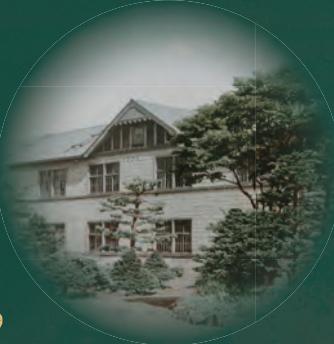


—— 絆をつなぐ 2013

会えて よかったです。



第48回旭川北高等学校同窓会
旭川市中・市高 北高同窓会 総会・懇親会
とき／2013年8月10日(土)午後6時より
ところ／旭川グランドホテル 3階グランドホール【旭川市6条通9丁目】

主催／第48回旭川北高等学校同窓会実行委員会

校 歌

mf 明るく普通の速さで

あたらしいきぶんか一のはな
のさんらんとやがてかほらむみ
づきによくやま一むらさきにめ
ぐりーたるまなびにはよ
ふるるよろこびいざてをとりてや
むなきあゆみにまことをとめむ

校 歌

木村五一 作詞
津田甫 作曲

一、新しき文化の華のはな

あたら
さんらん
とやがて
みずきよ
燐爛とやがて
山紫に
やまむらさき

水

清く

山紫に

まな

にわ

よ

にわ

よ

よ

よ

よ

よ

めぐりたる学びの庭よ
あふるるよろこび
溢れる歡喜いざ手を把りて
止むなき向上に真理を尋めむ

二、

逞しき腕の力は
遠つ代の祖に承けたり

汗あゆるその勤労の
成せる郷土豊けき穰

どこしへ榮行くこの世に生きて

止むなき教養清純を讃めむ

三、

かぐはしき緑の夕

白瑠の樹氷咲く朝
眉秀で魂澄む子等が

まだみして誉を謳ふ

見よ見よ祖国の前途は新
止むなき希望に光明を添へむ

——糸をつなぐ 2013

会えて よかったです。



もくじ
Contents

同窓会長あいさつ.....	1
学校長あいさつ.....	2
平成24年度会務・決算報告.....	3
同窓会規約.....	4
札幌・東京同窓会から.....	5
第37期恩師の近況.....	6
特集「同窓生の活躍」.....	15
同窓生から.....	25
今春の進路状況.....	27
北高NOW（部活動報告）.....	28
同窓会役員及び幹事.....	33
実行委員長・次期当番期あいさつ.....	35

「同窓の絆」



北海道旭川北高同窓会長
(北高18期)川島崇則



今年も同窓の皆様方のご協力のもと第48回旭川北高同窓会が盛大に開催されることとなりました。当番期として昨年から急入りに準備を進めさせてこられた高田和憲さんを実行委員長とする37期の皆さん方はじめ、サブ期の方々のご努力に心より敬意をするところであります。

今年の総会のキヤッチコピーヒは「会えてよかつた。絆をつなぐ2013」ということです。が、同窓会の意義はまさにこの「絆をつなぐ」ということに尽きるのではないかと思います。旭川で、札幌で、東京で、毎年盛大な同窓会が開かれていますが、同窓の絆は、時代を経て、年齢を重ねることにより強くなつていく

ものと思います。37期の皆さんも、今回の当番期における結束が、将来にわたつて北高同窓生としての絆をさらに強く、固いものにしていくことでしょう。8月10日の同窓会が、すべての同窓生にとって実りあるものになることを心から願つています。

さて、現在の旭川北高は、進学重視型単位制高校として8年目を迎え、「会えてよかつた。絆をつなぐ2013」ということです。が、同窓会の私立大学に116名もの合格者を出し、うち現役合格者は99人にのぼっています。北高関係者の方の話では、来年度は今年度以上に期待できるところで、母校の躍進ぶりは同窓会

ものになります。37期の皆さんも、また、北高同窓会も4年ぶりに役員一新がはかられることになつていて、ます。平成21年度に会長に就任した私はとつて、この2期4年間は長いので、あつという間でもあります。さて、不慣れな会長を力強く支えてくださつた同期の皆さんはじめ、先輩・後輩役員の方々に改めて感謝を申し上げます。これからも北高同窓会のますますの発展のために、陰ながら新体制を応援していくことをお誓い申し上げ、ごあいさつといたし

ます。

また、今回の総会は役員の改選期

校歌とその時代背景



北海道旭川北高等学校長

伊藤一正

本校の同窓会の皆さんにおかれましては、ご健勝で様々な分野でご活躍のことと推察申し上げます。

さて、この同窓会誌が皆さんのお手元に届くのは終戦記念日の直前であろうと思います。二年前に本校に赴任した私は本校の校歌の歌詞を見て、直ぐに終戦間もない頃に制定されたと直感しました。「新しき文化の華」「祖国の前途は新」などの言葉は、敗戦に打ちひしがれた日本

せん。

話は逸れますが、現在の我が国は繁栄のかげには日本人が忘れかけている史実があります。昭和二十六年九月のサンフランシスコ対日講和会議において、敗戦国日本をどのように処罰するか戦勝国が話し合っているとき、当時のセイロン、今のスリランカの全権大使が「憎しみは憎しみによってではなく、許すことによつてのみ消える」という法句經と呼ばれる仏典の一節を引用し対日賠償請求権を放棄したのです。かれの演説で会議の空気は一変し、ほとんど

使われていませんでした。しかし、現在の日本は他国がうらやむ豊かな国となりました。このあたりの時代の変遷を現代の高校生はほとんど知りません。従つて、校歌の歌詞がもつ意味合いもわからないかも知れま

せん。も使われていませんでした。しかし、日本の繁栄を享受しているのです。よつて、日本はスリランカに対し経済援助や技術協力を行っていますが、「してあげている」という不遜な気持ちではなく感謝の念を抱かなくてはならないでしょう。

閑話休題、校歌の歌詞の後ろに秘められたこうした時代背景を知らずして、字面だけ歌うのは、何とも寂しい限りです。国を思う気持ちを込めて書かれた校歌を生徒たちが理解し、いくつになつても口ずさんでくれることを願わざにはいられません。

最後になりましたが、北高同窓会の今後の益々のご発展と、第四十八回本校同窓会総会が盛会裏に終了しますことを心から祈念して校長挨拶といたします。

当時はまだ戦後の混乱期から完全には立ち直つていなかつたため、庶民の生活は慎ましいものでした。テレビや洗濯機、冷蔵庫は普及していませんでした。自家用車という言葉

会務・会計報告

平成24年度会務報告

平成24年	
4月8日	●入学式（川島会長・尾崎副会長）
5月12日	●役員・幹事長会議（ボスター・チケット配布） （旭川グランドホテル）
6月20日	●会計監査（旭川グランドホテル）
6月20日	●第3回役員会（旭川グランドホテル） (学校祭対応・総会)
7月8・9日	●北高校祭（同窓会露店参加） ゴルフコンペ
8月11日	●第46回同窓会総会（旭川グランドホテル） 学校祭収益金贈呈
8月11日	●当番期引継会（旭川グランドホテル） 第一回役員会（旭川グランドホテル） 札幌31回同窓会（川島会長他5名参加） 同窓会入会案内発送
1月26日	●第2回役員・幹事会・新年会 (旭川グランドホテル)
2月28日	●同窓会入会式（全日制・定時制） ノースウインド20号発刊
3月1日	●卒業式（川島会長・尾崎副会長） 役員・幹事長会議（ボスター・チケット配布）
3月8日	●入学式（川島会長他5名）
3月11日	●会計監査
4月7日	●第3回役員会（旭川グランドホテル） 北高校祭（同窓会露店参加）
5月6日	●第46回同窓会総会（旭川グランドホテル） ゴルフコンペ
6月7日	●学校祭収益金贈呈
7月6日	●当番期引継会（旭川グランドホテル） 第1回役員会（旭川グランドホテル） 東京同窓会総会 (ホテルメトロポリタンエドモント)
8月10日	●第46回同窓会総会（旭川グランドホテル） ゴルフコンペ
8月10日	●学校祭収益金贈呈
8月10日	●当番期引継会（旭川グランドホテル） 第1回役員会（旭川グランドホテル） 東京同窓会総会 (ホテルメトロポリタンエドモント)
9月12日	●札幌32回同窓会総会（札幌すみれホテル）
9月25日	●札幌32回同窓会総会（札幌すみれホテル）

旭川北高同窓会平成24年度一般会計決算書

◎収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	304,721	304,721	0	
2 同窓会費	1,136,000	1,224,000	88,000	
(1)入会金	488,000	516,000	28,000	258名 × 2,000円
(2)終身会費	648,000	708,000	60,000	236名 × 3,000円
3 雑収入	210	125	▲ 85	貯金利子
合 計	1,440,931	1,528,846	87,915	

◎支出の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 総務費	930,000	511,544	▲ 418,456	0
(1)事務費	20,000	0	▲ 20,000	消耗品費
(2)会議費	300,000	222,000	▲ 78,000	役員会・幹事長会等開催費
(3)通信費	36,000	30,145	▲ 5,855	切手・はがき・電話
(4)印刷費	10,000	0	▲ 10,000	会議開催案内状等印刷費
(5)慶弔費	30,000	0	▲ 30,000	香典、生花、弔電
(6)支部活動費	130,000	110,000	▲ 20,000	札幌同窓会出席者旅費、活動助成金
(7)学校事務費	20,000	0	▲ 20,000	学校事務局謝礼
(8)後援会費	144,000	0	▲ 144,000	学校後援会費
(9)卒業記念品費	170,000	147,194	▲ 22,806	卒業生記念品
(10)後援会事業費	30,000	0	▲ 30,000	学校祭協力費
(11)雑支出	40,000	2,205	▲ 37,795	振込手数料
2 文化費	280,000	307,750	27,750	ノースウインド第20号印刷費、活動費
3 予備費	230,931	0	▲ 230,931	
合 計	1,440,931	819,294	▲ 621,637	

◎支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残高
1,528,846	819,294	709,552

残額709,552円は次年度へ繰越

◎平成24年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部	支出の部	残 金
第47回総会準備金返還	300,000	第48回総会準備金貸付
北高第13期御祝儀(22名)	215,000	御招待者(北高13期生)会費
ネクタイピン販売(2個)	3,000	ストラップ作成(200個)
ストラップ販売(123個)	61,500	久保倉里美さん オリンピック出場祝懸垂幕
貯金利子	158	フリー カップ(陶器とグラ スセット)作成100個
前年度繰越金	929,050	
合 計	1,508,708	合 計
		881,030

次年度へ繰越
627,678

◎同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成24年度 積立額	平成24年度 支出額	合計累積額	摘要
9,011,399	312	0	9,011,711	積立額は郵便貯金利子

◎同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成24年度 積立額	平成24年度 支出額	合計累積額	摘要
1,653,641	200,397	0	1,854,038	積立額は郵便貯金利子と実行委員会より寄付

安心して生活できるために



札幌支部会長

武田 寛
(北高16期)

東北大震災から2年余が経過した。原発の諸問題、災害復興作業も思うように進んでいない。当事者には、もどかしさがあり精神的ストレスが限界に達しているのではないかと推察する。今回の震災は、想定外の地震の規模であり津波にしても想定をはるかに超えていたが、想定が甘かつたとしか言いようがない。私は建築の鉄筋コンクリート構造を専門としているが、建築構造物の設計にあたって、津波、竜巻は考慮していない。なぜならこれらを考えて設計したら建設費が莫大になる。構造物を設計する場合、建物の重要度に応じて、重要度係数（用途係数）が、1.5、1.25、1.0に決められた（例えば、官庁施設の総合耐震計画規準）。この係数は建物の設計時に地震力を割り増す係数である。一般的の建物は大地震時に損傷を受けるもののが多く、人の命を守ることを設計目標としている（係数1.0）。被害が多くの人々に影響を及ぼ

札幌 東京から

東京旭川会のこと



東京旭川会会長

高橋照美
(北高4期)

す建物（放送関係、消防、官庁関係、学校等々）は大地震後も機能を保持することが要求されている（係数1.25）。では、原子力発電所はどのような外力（地震力、津波エネルギー）で設計されたのであらうか。当時は関東大震災級の大地震を想定して設計されていたものと考えられる。（実際の最大加速度は設計値の約1.26%の550ガルを記録）

原子力発電所が破壊して放射性物質が放出された場合に、数百万、数千万人に影響を与えることを考へると重要度係数を1.5としても高すぎるとはないと考える。

原子力発電は安全であるとコマーシャルベースで宣伝されてきたが、我々が知りたいのは耐震性能である。

何ガルの地震で、どの位の津波でどのような被害が出るのかということである。例えば、身近な木造住宅を例に取つてみる。各住宅に住宅性能を表示するのはいかがでしょうか。建築年、設計者、施工会社、更に、日本住宅性能表示基準（平成13年8月14日制定）に則つて、住宅の性能（等級）を玄関先にでも表示すべきではないかと考える。安心・安全に生活するために・・・・・・・

昨年四月、新装になつた旭川駅舎

内に石川啄木の歌碑像が建立されました。これは東京旭川会と旭川の市民団体の協力によつて実現した者です。

東京旭川会では、毎年「郷土訪問旅行」を行なつていますが、今年も一行十四名が参加して行なわれました。

初日の六月三日は、北高出身者には懐かしいスタルヒン球場でのナイタ観戦でしたが、遙かに大雪山連峰を眺めながらの野球観戦は素晴らしいものでした。私は八日の「音楽大行進」も見学しましたが、北高のバンド

はチアリーダー先導の下、見事な演奏で感激しました。

北高東京同窓会では、永年私が世話を務めて親睦ゴルフ会を開催してきましたが、今年、中止していた東京旭川会ゴルフ会と合体して再開されました。山崎さんが世話を担当つて運営してくれています。

今年は北高東京同窓会開催の年ですが多くの皆様のご出席を期待しています。



道立高校36年間、そして、私立高校（札幌龍谷学園高等学校）勤務3年目の計、39年間の教職人生を振り返ってみて、忘れ得ぬ日はそれぞれの勤務地ごとにいくつもありますが、その一つに平成25年5月16日（木）という日が加わることになりました。その日は、午前中、3時間の授業を終え、その後、職員会議の記録に当たつていたので、議題などを会議室の黒板に板書し、配付資料などの準備、そして、本番の職員会議、終了後は進路室で明日の準備等々、学校を出たのが18時30分を過ぎていました。疲れ切つて帰宅した時、妻から「お父さん、北高の同窓会から手紙が届いているよ。」と言われました。私は統廃合になつた函館北高校にも勤務していたので、あまり気にもとめず夕食後にその黄緑の封筒に目をやると、なんとそれは、私が35才から39才にかけて5年間勤務した



忘れ得ぬ日

山岡正司

旭川北高校の同窓会総会・懇親会開催の案内状でした。ご丁寧に招待状までも同封されていました。実行委員会委員長には、野球部員で丸坊主であつた懐かしい高田和憲君の名前が、そして会誌編集委員長には、これまで懐かしい野々瀬博美さんの名前が載っていました。その時24年前の二人の顔が脳裏に浮かびました。

道立高校最後の札幌東陵高校に転勤をした5年前からは、札幌在住の喜多さん、奈良さん、荒木さん、菅原さんと共に一度は、クラス会を開いて近況報告を行つていましたが、旭川北高時代の他の教え子から手紙やはがきが届くことは、今までありませんでしたので、その夜は、当時のクラスの生徒や教え子のことなどが思い出され、その一人ひとりがその後、どのような人生を歩んでいるかを考え、頭が冴えて眠れませんでした。

恩師の近況



雑感——思うままで

島田康弘

同窓会の招待状をいただき、もうその時期になつたのか、年月の過ぎる早さに驚いています。前回は五年前でしたが、その時はなんの疑いもなく、出席しましたが、初めての時は、どうして招待状なのか、北高の卒業生でもないのに、なんで同窓会なんだろう?と幹事に聞いて、諒解したわけです。それで、五年前に出席した時、次回は出席できるだろうか?と一寸心配しましたが…。

僕らの同期は来年三月末までに傘寿を迎えます。退職した時はここまで生命維持できるだろか、三十代後半から高血圧、四十代後半から糖尿病になり、今でも月一回通院、その後二度にわたって強制切腹しながら、よく今日までとわれながら感謝しています。

車の運転は去年十月末で免許証を自主返納して運転経歴証明書を交付してもらい、免許証と同じように身分証明書として重宝しています。紛失しても害がないので…。運転しな

くなつて物足りない感じですが、免許証を手にして二、三日後父の車を運転したのですが、もとの神楽中学校前で十二kmのスピード違反で反則金を納めて、このような勘定の合わない事は二度としないぞ、と決意しました。

これが最初で最後でした。自主返納の理由は、若いころからみると、当然のことながら視野が狭くなつたようだし、動作も鈍くなつたし、運動で緊張感が持続しなくなつたので決心したわけです。これも年寄りなら当たり前だと思います。文章を書くことが苦手な僕にとってこれで最後、解放感いっぱいです。

これから、やりたいことは特にないでの、ラジオを聞きながら、小説や雑誌を読みながら、すぐしたいです。

思うまま、感するまま書いてきま

したが、最後に幹事各位のご苦労に感謝し、同窓生諸氏のご健康とご多幸を、さらに益々のご活躍を祈念して、ペンをおきます。

ムが四冊あります。本同窓会実行委員三十七期の皆さんには三冊目にあります。二十九歳で北高に赴任したときは若手二番目でしたが、皆さんとともに生活した二年間は三十五、六歳で若い方から八番目。二年生のときは副担任、三年時だけの正担任で北高には十一年間お世話になりました。北高には三十代でました。ただこの歳になると、いつ担任した生徒かの記憶はかなりあやしくなつてしまっています。再会して失礼のことをお許し下さい。

さて、私は今年で四十年目の教員生活を迎えました。四十歳で北高から札幌市立高に転勤し、開成、道研、旭丘、新川、平岸、清田と六ヶ所まわり、三年前の春、ようやく高校を卒業しました。現在は東海大学札幌キャンパスで教職課程を受け持ち、また週一回北海学園大学で国語科教育法を担当(今年は北高卒業の学生は三名)しています。学生と一緒に

我が家には旭川北高の卒業アルバムが四冊あります。本同窓会実行委員三十七期の皆さんには三冊目にあります。二十九歳で北高に赴任したときは若手二番目でしたが、皆さんとともに生活した二年間は三十五、



いま思い出すことと 近況をすこし

武田克伸

すので気持ちだけは若くいられますし、知識と経験してきたことを分かち易く、面白くそして身になるように伝える努力の毎日です。

加えて、全国高校新聞、全道高校新聞、全道図書館報のコンクールの審査に携わっています。昨今話題の体罰問題などに関する倫理委員を仰せつかつており、家事手伝い(炊事、洗濯、掃除など)の見習い修行とあわせて、ほどほどの忙しい毎日です。

振り返ってみると、三十代の努力が四十年代に、四十代の実践が五十年代に、五十年代の蓄積が六十代に活かされてくるのかもしれないと思つてゐます。三十七期の皆さんにお話ししていた「だますな、だまされるな、だますこと(社会)を許すな」のスローガンは、現在でも私の座右の銘です。

北高卒業して二十六年になる皆さんに再会できることを楽しみにしています。

恩師の近況



我が旭川北高等学校

藤見 弘道

まずは旭川北高等学校第四八回窓会の開催を心からお祝い申します。凡そ半世紀近くも前に北海道の高校教員として採用され、旭川北高校。それは二校の二校として奉職しました。そこは二校の長い間、一〇年間の長きに渡り勤務させていただきました。私が勤めた幾つかの窓会にはその高校の特色があり、色々な思い出も沢山あります。その中で色々な思い出が詰まっています。

まずはじめに高は一番長く勤めた高校であり、その窓会では多くの住居は校地内にあります。花咲町三丁の公宅二棟二戸の住宅が四棟あります。この辺りは夕方になると、が飛んでもいませんでした。ですが、引っ越しは窓の側にいたダメだ。ボルトが飛び出る前に市営球場が出来ました。市営球場が出来たのがいつ頃かは記憶がありません。でも、ボルトは飛んで来ること多かったです。ボルトが転がり込んだときに、私はとても驚いたのです。なぜなら、ボルトは飛んで来るところが、家の間の狭い場所にありました。そこで、私は「試合が終わったら、花咲町三丁の公宅に引っ越す」と決意しました。しかし、ボルトは飛んでくることはなくなりました。なぜなら、花咲町三丁の公宅には、他の生徒たちがたくさんいました。彼らと一緒に遊ぶことができました。それが北高の魅力でした。

当時の北高は、とにかく高くて狭い場所でした。しかし、それでも生徒たちは元気で、毎日元気な笑顔で過ごしていました。それは、北高の生徒たちの個性や、その地域の文化が反映されていたからだと思います。

今思えば、北高時代は、人生で最も大切な経験になりました。それは、生徒たちの成長や、教師たちとの情の結び、地域社会とのつながりなど、様々な要素が複雑に交差するところでした。特に、北高時代は、その後の人生に大きな影響を与えたと言えるでしょう。

最後に、北高時代を振り返るとき、必ず思い出されるのが、北高の歌です。それは、北高時代を象徴する存在であり、多くの生徒たちの心を鼓舞する力を持っていたと思います。歌詞には、北高の日常や、生徒たちの想いが詠っており、今でも聴いてみると懐かしく、感動的です。

この後、私は北高時代の思い出を語りました。北高時代は、人生で最も大切な経験になりました。それは、生徒たちの成長や、教師たちとの情の結び、地域社会とのつながりなど、様々な要素が複雑に交差するところでした。特に、北高時代は、その後の人生に大きな影響を与えたと言えるでしょう。

さすがに、このお話を聞くと、私も北高時代のことを思い出します。北高時代は、人生で最も大切な経験になりました。それは、生徒たちの成長や、教師たちとの情の結び、地域社会とのつながりなど、様々な要素が複雑に交差するところでした。特に、北高時代は、その後の人生に大きな影響を与えたと言えるでしょう。



恩師の近況

昨年傘寿を迎えた。今年は退職二十年目に入りました。現役時代四十一年間の勤務時間十万時間と退職後二十年間の自由時間が同じと言われております。この二十年は早いと言えます。この二十年は早いと言えます。この二十年は早いと言えます。この二十年は早いと言えます。

月が勝手に過ぎて行ってしまった感じです。わが人生はこんなものでしょうか。

この二十年の前半はあまり記憶に残りません。後半の十年は、娘の家の家事に従事し、孫との生活で、自分も幼い世界の感動を共有できた丈夫イクジイでした。札幌、横浜へと妻と交代で出かけ、最近は冬は旭川、夏は横浜の生活でした。この横浜詰めも昨年で終わりました。

横浜では、東京へのアクセスがよく、美術展、スポーツ（ラグビー、テニス）観戦に出かけました。小旅行では夜行日帰りバスの尾瀬、一、二泊の旅で、半世紀以上前の曾遊の地なども訪れました。スポーツ・ジムでは水泳、ヨガを中心にやりまし



「二十年一日」

武井克彦

た。ゆっくりと長く泳ぐを目指しましたが、クロールの息継ぎがいままだにできず、課題となっています。

昨年からやっと旭川の生活に落ち着き、嵐山の野草・野鳥観察会（専門家の丁寧な案内で大満足）に参加したり、冬は春光台で歩くスキーをしております。相変わらずテニスをやっています。音楽も聞くようになります。今はサンソン・フランソワのシヨパンのノクターンが気に入っています。水彩画を始めましたが中断しております。「ものの存在の美しさ」を発見し感動しております。

現在共感しているのは古代ローマの哲学者セネカの言葉です。「われわれにはわずかな時間しかないのではなく、多くの時間を浪費するのである。人間の生は、全体を立派に活用すれば十分に長く、偉大なことを完遂できるよう潤沢に与えられていく。」「生の短さについて」（岩波文庫）



「ある日の日記」

石岡勝義

六時起床。洗顔。朝食は自分で意する。納豆に細かく刻んだニラとすりゴマを混ぜて百回かき混ぜる。味噌汁に卵。焼き魚。漬物。食後は玄米茶など飲む。食器は自分で洗う。

さて、それから、テレビのニュースを横目で見ながら購読している三紙にざつと目を通す。切り抜き予定の記事に蛍光ペンで印をつけておく。

次に、前日の新聞をもう一度読みながら、切り抜く。かなりの量だ。それを百均で買ったWリングのノートに貼り付ける。月に三冊は必要だ。こんなことをしていると、十時前後になっている。ここでコーヒー ブレイクといこう。一日4杯ほどのコーヒーはガン予防になるとか言われている。ほんとかね。ソファアーム姿に変身。最近は走るたびに記録更新だ。悪いほうの。5kmから10kmほどをノロノロ走る。これは今も続いている山登りのトレーニングなのです。行く山はヒマラヤマならぬ裏山のピンネシリ山系。登山口まではポンコツのヤマハ・DT50で行く。

スピードがノロイのでいらいらする。寝転がって朝食前の読書を楽しむ。読む本は野幌の図書館と大麻の道立図書館を活用している。ネットで検索して予約したり、ない本はリクエストのシステムを徹底的に利用する。両館ともほぼ100%購入してくれるのでホント助かる。今読んでいる

のは「福島事件」など虚実まぜこぜの山田風太郎の「幻燈辻馬車」。この作家は顔は凡庸?だが作品はものすごい。「地の果ての獄」とか「秘戯書争奪」を試しに読んでもらいたい。

夕食後は、私が師と仰ぐ小樽出身の地質・古生物学者の井尻正二先生の忠告「凡人のための勉強計画」に従い、不破哲三「資本論全三部を読む」を手引きに、「資本論」を少し



10組



「あのころ・あれから」

織田堅持

留萌高校から旭川北高に転勤した
昭和59年37期の諸君の北高生活の始
まりが私の北高第一歩でした。当時
46才現在の諸君とほぼ同年代ですね。

あのころの英語科は女子30人男子
6人の女所帯で男子は教室では小さ
くなつていて昼休みにはスタルヒン
側の階段に座つて弁当を食べていた
ことを思い出します。そんな男子も
だんだん成長して球技大会などの行
事では9・10男子連合で普通科の男
子に対抗して団結力を誇示できるよ
うになつていきました。最も印象に
残つているのは見学旅行最終日の寝
台列車での出来事です。我々の車輛
は一般客と相乗りりで双方が遠慮し合
いながら時間が経過して行きました。
この閉塞感を打破したのが印田君で
した。彼は同乗の一般客にお願いし
て時間を区切つてクラスパーティー
を行いたいことを提案し無事これを
成功させたこと、終了後一般客のお

年寄りからしつかりした生徒達だと
お誉めの言葉をいただいたことなど
鮮明に思い出し懐かしい限りです。
君達が卒業した後は十年程北高に
勤務し続け三度卒業生を送り出しま
した。平成10年3月が私の北高卒業
生徒担任同時卒業でした。

退職後十年間は時間講師を龍谷高
校などで勤め七十才で先生生活とサ
ヨナラしました。六十才の定年退職
の春から旭川軟式野球連盟の審判員
をつとめることになりました。最近
では37期生の息子さんの試合に立つ
こともちょくちょくあります。今年
の一月に七十五才になりました。後
期高齢者の仲間入りで現役の皆様に
面倒をかける年令に至りました。走
力が衰え大人の試合は大変になつて
きました。子供達の方も夏の炎天下
一日三試合立ちなどは少々億劫に感
じるようになりそろそろ退け時かな
と感じているところです。



体育祭・球技大会 今昔
[1965年ころ]



バレーボールやバスケットボール、バドミントンや卓球などが行われていたようです。
見学・応援の生徒は制服のままでですね。

学校祭の一環で 体育祭が行われていました
[1987年ころ]

綱引きは
3学年合同で
行われていました。



騎馬戦は
体力の他に、
戦略も必要！



女子限定の競技の
ようですが、名称も
ルールも思い出せません。

1999年からは 体育祭、球技大会を一つにした
体育大会へ

第1回体育大会

1999年8月23日(月)～8月26日(木)



ルーズソックスに時代を感じますね！



長縄跳が綱引きにかわって登場！

クラス衣装も、つなぎあり、ドラゴンボールの孫悟空風あり 華やかです。

2012年
ユニフォームは サッカーチーム風が主流



旧体育館

窓にカーテンがありません

冬季暖房もなかったですよね。



新体育館



種はその頃に蒔きました

フリーacamaman

本多 晃子
(ほんだ あきこ)

第37期

高校時代、今の年齢の感覚で言うと、たった3年間でした。でも、その3年間が、現在の自分の考え方、意識、人間関係、趣味、の、基礎を固めたのだと明言できます。

中学生の時、当時の北高には「お勉強もできて自由な校風」というイメージがあり、あこがれ、どうしてもこの学校に入りたくて一生懸命受験勉強をしたのを覚えています。

さて、晴れて合格、入学してみるとますます自由な校風ではあります。それに乗じて自由になりすぎた私は、お勉強のほうは全くしなくなってしまつたというオチです。もちろんそんな自由は認められるはずもなく、もっぱら補習の常連でした。

勉強のほうはからつきしでしたが、趣味に夢中になつたり交友関係には、垣根を超え、たくさんの方人に恵ま

れ、囲まれていたという感じです。(現在でも交流のある友人の中には、ことあります。勉強だけはせめて複数います。) そんな、自由で垣根を超えた感覚が、現在のフリーacamamanという仕事に大いに役立つているように思います。むしろ、そういう感覚への適合ぶりからこの仕事を選んだと言つても良いでしょう。

フリーacamamanですので、土日も祝日もお盆もお正月も関係なく、時雨も雪も暑いも寒いも関係なく、時には映画、時には音楽、時には書籍、時には保育所、時にはお料理、何にでも関わります。まるで物見遊山のようだ。私にとっては夢の様な仕事です。もちろんどんな仕事にもつきませんが、それでも楽しく日々を送っています。幸せですね。

本多 晃子さんのプロフィール

昭和62年 旭川北高卒業
札幌大谷短期大学 美術科入学
平成元年 東京都 広告制作会社
写真スタジオ入社
平成2年 フリーの広告カメラマンに師事
平成6年 フリーacamamanとして独立
現在に至る

「同窓生の活躍」



高校時代に読みふけてた少女漫画誌、「別冊マガレット」の表紙が自分の撮った写真で構成される未来が来るとは、当時夢にも思いませんでした!!

「同窓生の活躍」

三根梓

撮影 本多晃子

三根梓 ファースト写真集

三根梓

映画『シグナル～月曜日のルカ～』で
主演デビュー
奇跡の新人女優誕生!!
『シグナル～月曜日のルカ～』の
続編的写真集が遂に完成!!

「同窓生の活躍」





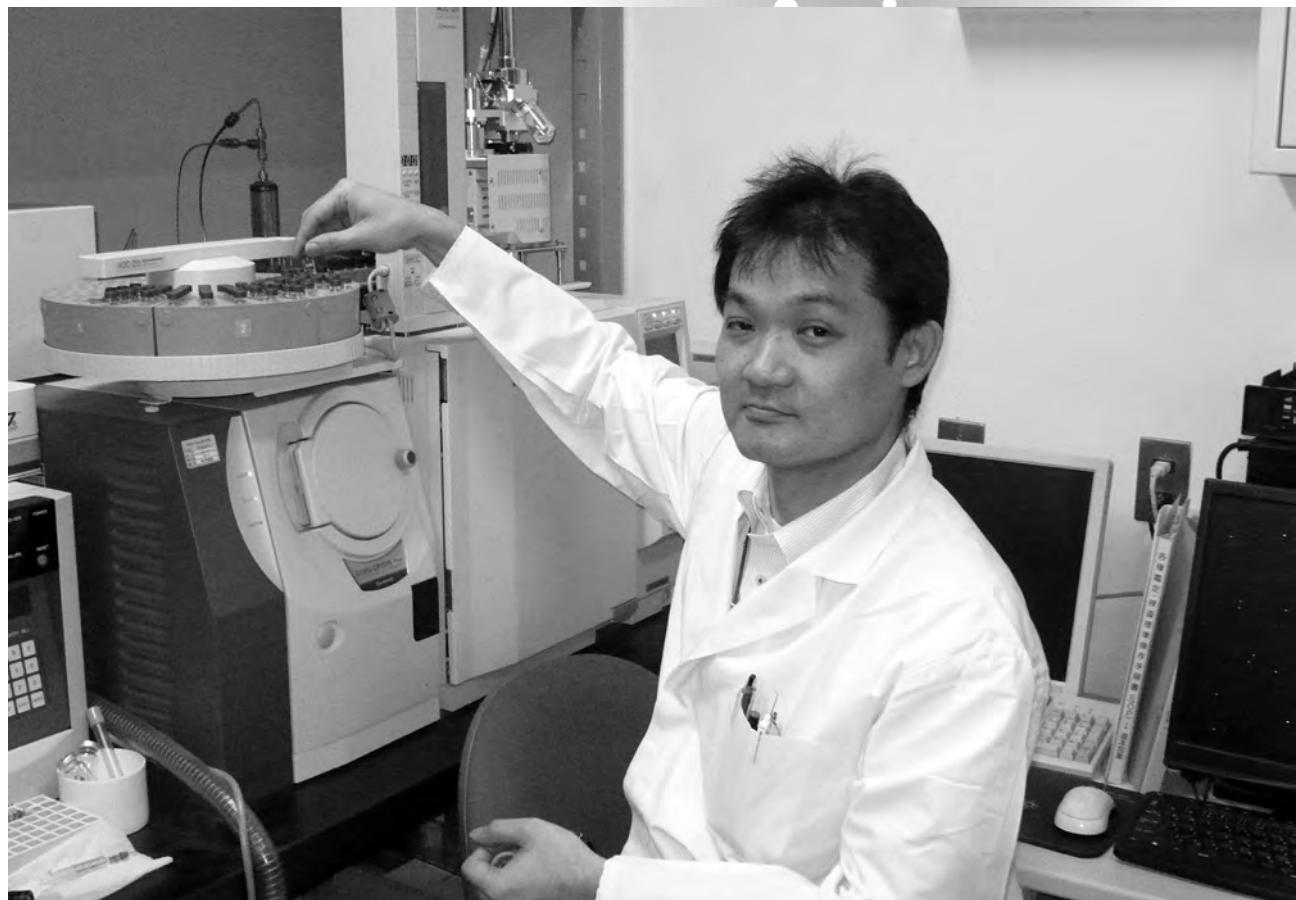
『科搜研で勤務して』
北海道警察釧路方面本部鑑識課
科学捜査研究室 副室長

飯田 英己
(いいだ ひでき)
第37期

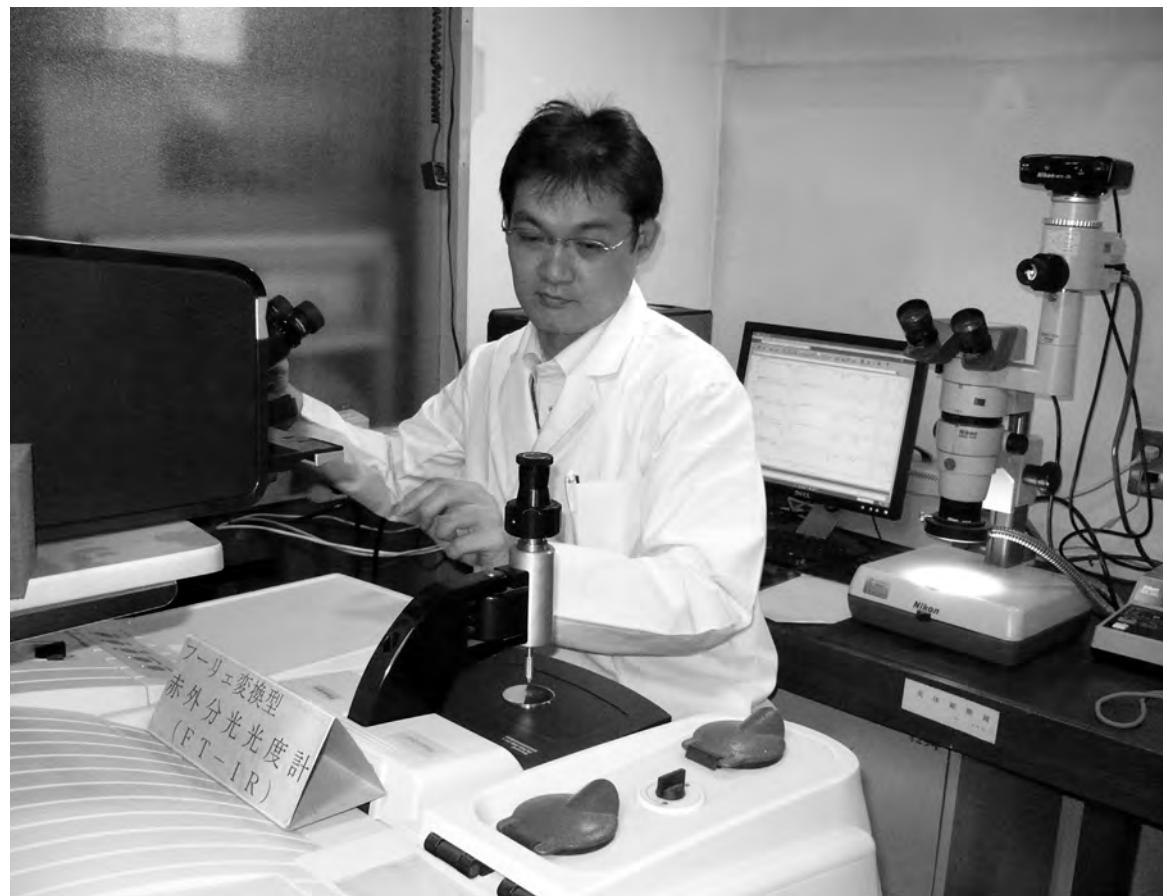
士別市出身である私にとって、旭川北高校は幼い頃からの憧れの学校でしたので、両親に無理を言って、学区外定員の枠で受験し、卒業までの3年間は親元を離れての下宿生活。今、思えば当時、漠然とした理科系志望者ではあったものの、自分が科捜研職員になることなど微塵も想像していました。大学に入つてからは、「研究職に就きたい。」という思いが芽生え始め、その思いは時が経つに連れて強固な意志へと変貌。大学4年生のときには、就職活動などは一切せず、研究者の道に進むべく、卒業研究に没頭し、大学院進学を目指して猛勉強の毎日でした。そんなとき、「道警の科捜研で研究職員の募集がある。」との情報が入ってきました。ダメもとで採用試験を受けたところ、見事(?)に合格。平成4年4月から科捜研職員としての歩みが始まりました。

さて、皆さんは科捜研に対しても、どのようなイメージをお持ちでしょうか。テレビ朝日系列で『科捜研の女』がテレビ放映されるようになつ

川北高校は幼い頃からの憧れの学校でしたので、両親に無理を言って、学区外定員の枠で受験し、卒業までの3年間は親元を離れての下宿生活。今、思えば当時、漠然とした理科系志望者ではあったものの、自分が科捜研職員になることなど微塵も想像していました。大学に入つてからは、「研究職に就きたい。」といふ思いが芽生え始め、その思いは時が経つに連れて強固な意志へと変貌。大学4年生のときには、就職活動などは一切せず、研究者の道に進むべく、卒業研究に没頭し、大学院進学を目指して猛勉強の毎日でした。そんなとき、「道警の科捜研で研究職員の募集がある。」との情報が入ってきました。ダメもとで採用試験を受けたところ、見事(?)に合格。平成4年4月から科捜研職員としての歩みが始まりました。



「同窓生の活躍」



これから、科搜研の知名度は飛躍的に上がり、科搜研に対しても、多くの方々から期待が寄せられるようになります。科搜研の仕事には、重責を担わなければならないという一面もありますが、犯罪捜査に貢献できた

ときには、大きな達成感が得られます。

現在、道警の科搜研では、DNA型鑑定を担当する法医科、薬物鑑定を担当する化学科、微細物鑑定を担当する精密分析科、工学的な鑑定を担当する物理科、筆跡鑑定を担当する文書科、犯人像のプロファイリングを担当する情報分析科……など7科2係が専門分野に応じて設けられており、事件解決や事故原因の究明のため、各分野の担当者が科学的な専門知識と高性能分析機器を駆使して、鑑定・検査を行っています。科搜研職員は、拳銃や手錠を持たない代わりに、科学技術という強力な武器で犯罪者を追い詰めます。また、科搜研職員には、鑑定技術の高度化を推進する責務があるため、学会やセミナーに参加し、研究成果を発表することも重要な仕事となっていました。時には、裁判所の法廷で証言を求められることもありますし、昼夜を問わず発生する事件や事故に対応するため、夜間や休日に緊急鑑定の要請に応じることもありますが、科

とには、大きな達成感が得られます。

現在、道警の科搜研では、DNA型鑑定を担当する法医科、薬物鑑定を担当する化学科、微細物鑑定を担当する精密分析科、工学的な鑑定を担当する物理科、筆跡鑑定を担当する文書科、犯人像のプロファイリングを担当する情報分析科……など7科2係が専門分野に応じて設けられており、事件解決や事故原因の究明のため、各分野の担当者が科学的な専門知識と高性能分析機器を駆使して、鑑定・検査を行っています。科搜研職員は、拳銃や手錠を持たない代わりに、科学技術という強力な武器で犯罪者を追い詰めます。また、科搜研職員には、鑑定技術の高度化を推進する責務があるため、学会やセミナーに参加し、研究成果を発表することも重要な仕事となっていました。時には、裁判所の法廷で証言を求められることもありますし、昼夜を問わず発生する事件や事故に対応するため、夜間や休日に緊急鑑定の要請に応じることもありますが、科

搜研職員としての誇りと使命感が支えとなっています。

科自身は、覚醒剤をはじめとした各種乱用薬物や微細物の鑑定などを担当する鑑定業務に従事してきました。道警本部勤務時代には、化学科長、精密分析科長を歴任してきましたが、現在も科学捜査の第一線で仕事ができることに喜びを感じています。

この同窓会誌を読んで科搜研の仕事を興味を持つた北高生諸君、君達も科搜研職員を目指してみないか！

飯田 英己さんのプロフィール

- 1968年（昭和43年）北海道士別市生まれ
1987年（昭和62年）旭川北高校卒業
1992年（平成4年）北海道東海大学工学部生物工学科（札幌キャンパス）卒業
（現、東海大学生物学部生物学科）
1992年（平成4年）北海道警察本部刑事部科学捜査研究所入所
1993年（平成5年）～北海道警察北見方面本部鑑識課科学捜査研究室勤務
2000年（平成12年）～北海道警察本部刑事部科学捜査研究所勤務
2012年（平成24年）～現職に至る



歌う報道デスク

UHB 北海道文化放送
報道制作局 報道部

副部長

小田
(おだ)

学
(まなぶ)
第38期

私の北高在学中は、吹奏楽部に所属。フルートを吹いていました。少から音楽が大好きでロックバンドも組んでヴォーカルを歌つてもいました。

アメリカ留学から戻ってきてからは、「1年下に絶対に負けられない」との思いから英語を必死に勉強し、推薦入学で大学に入り、人並みに1年留年して(!)、現在のUHB 北海道文化放送に入社。この春で勤続20年になりました。UHBの20年間では、2年を除き、報道部に所属。最初は事件記者、その後、旭川支局の記者などを経て、2006年までの3年間はモスクワ特派員もしていました。テレビで、私のいろんなリポートをご覧になつた方もいるかもしれません。現在は、報道デスクであり、さまざまな報道特番をブロデュースしています。

報道の仕事はやりがいがあります。こうした混沌とした時代のなかで、報じなければならないことは山ほどあります。ただ、発生する災害や事故に対応するのは、精神的に

も肉体的にもタフでなければならず、まだ未熟さを痛感しています。

本当は音楽家になりたいと思つてました。それくらい音楽が好きです。しかし、中学のころ、独立した

父の会社が破産して、両親は離婚。母子家庭となり、今思えば、母親から一生懸命に育てられ感謝の気持ちでいっぱいですが、電話回線ひとつアパートに引けないほど文字通りの

「極貧」な生活だったため、何よりも「早く経済的に独立すること」が

最優先事項でした。中学、高校、大学と計10年間、新聞配達を続け、自

分の小遣いや生活費を稼ぎました。今、こうして妻と7歳の娘の笑顔に囲まれ、つつましいながらも、幸せな家庭を持つてゐ身になりました。

5年くらい前から、東京の著名なテノール歌手に師事し、歌を習い続け





小田 學さんのプロフィール

- 1968年（昭和43年）北海道紋別市生まれ
- 1984年（昭和59年）北海道旭川北高校英語科入学 吹奏楽部入部
- 1985年（昭和60年）英語講師デイヴィッド・グリフィス先生の勧めで米国・アーカンソー州に1年間留学
- 1988年（昭和63年）北海道旭川北高校卒業 明治大学政治経済学部政治学科入学 オーケストラ所属
- 1993年（平成5年）UHB北海道文化放送入社 報道部に配属
- 2003年（平成15年）FNNモスクワ特派員
- 2006年（平成18年）帰国 UHB北海道文化放送 報道部・社会キャップ
- 2007年（平成19年）テノール田口興輔氏に師事
- 2008年（平成20年）札幌コンサート・ホールKITARAでテノール歌手としてデビュー
- 2011年（平成23年）東日本大震災で岩手に報道デスク応援 テレビ朝日「題名のない音楽会」の「めざせスマッシュ・ボイル第1回歌ってみまSHOW！」に出演、初代グランプリを獲得。
- 2012年（平成24年）フジテレビ「27時間テレビ」の「FNSアナウンサーがんばった歌謡大賞」にアナウンサーでもないのに出場し、満点を獲得。
- 2013年（平成25年）フジテレビ「27時間テレビ」の企画（今年はミスターFNSコンテスト）に、系列としては異例の2年連続出場。

ています。年に1回程度、お弟子さんたちとともにコンサートを開き、宴会や結婚式に呼ばれては、歌を披露させていた。だくようになり、2011年4月、他系列局ですが、音楽番組「題名のない音楽会」の「歌つてみまSHOW！」という企画で、オペラ「道化師」の衣装をつける“を歌つて、初代グランプリを獲得。去年は、系列のフジテレビ「27時間テレビ」の「アナウンサーがんばった歌謡大賞」にアナウンサーでもないのに出場し、満点を獲得。

た歌謡大賞」というコーナーに、アナウンサーでもないのに出演させていただき、憧れだった「トウーランドット」の「誰も寝てはならぬ」を熱唱、審査員から満点もいただきました。ただ、千原ジュニアから「ただの報道のおっさん」と言われ、賞は逃しましたが…。

いつかCDデビューを！44歳の“オダロッティ”は、今も夢を追い続けっています。



より良いゲームコントロールをするために…

フットサル1級審判(日本サッカー協会所属)

(旭川市立永山南中学校教諭)

西川 博康

(にしかわ ひろやす)

第42期

私は昨年、日本サッカー協会のフットサル1級審判員（F1級）に登録され、審判活動を行っています。

現在、F1級は日本に35名いて、日本フットサルリーグ（Fリーグ）や全国大会などで審判活動を行っています。

審判活動を始めたきっかけ

今考えるとですが、北高での3年生での高体連だったのかもしれません。自分がうけたファウルがファウルとして判定してもらえずに鞄帯を切つてしまつたことだったのかも・・・。（その後、自分の治療中に得点を取られて、結局負けてしまいました。）

ピッチ上の透明人間に：

フットサルの審判員は、選手にとって空気のような存在でなければならぬと考えています。普段は見えないが、いなければ試合が成り立たない。決してでしゃばってはダメで、審判員が目立つゲームは、選手も観客も面白くないゲームだと思つてい



ピッチ上の 透明人間に
(左端の黒いユニホームが本人)

「同窓生の活躍」



ます。ミスジャッジは当然ダメですが、警察のように反則を全て見つけてやまろう、ファウルを全て見つけてやまうという気持ちで審判を行うと、試合が何回も中断し、フリー・キックの場面が増え、ゲームのレベルや質は決して上がっていないと思います。お互いがボールを奪い合う中でファウルかファウルでないかのぎりぎりの攻防をさせることが選手の技

フットサル審判の醍醐味？

審判なんて、文句ばかり言われて面白いんですか？と聞かれます。（そうなんですか？）面白いんですけど、それは99成功したとしても、1つ失敗をするとそれを選手はよく覚えています。それが、本当は間違いではなくても・・・。それが、試合結果を左右する判定だとなおさらです。）面白いと答えてしまうと、

一生懸命な選手に失礼な気がしますのでいつもはぐらかせていますが、後に、あつ、審判いたんだとか、審判の顔を選手が思い出せないそれが自分の理想です。自分はピッチの上の透明人間でありたいといつも思っています。

術向上させ、観客も楽しませることができると考えています。ゲーム定にも機械が導入されつつあります。しかし、ファウルか否かの判定はこれからも人にしかできないことだと思います。（これが、野球やバレー・テニスの審判には味わえない醍醐味？）選手の心を読んで、選手の表情、目の動きから、次に何をするのかを予想し、選手よりも先にポジションにつく、やはりそこにボールを通してきたね。わかつてましたよ。

試合のレベルが上がるところ、その予想が外れ始める。じゃあ、2手先、3手先を予想しなくちやダメなのです。頭で予想をし、その予想に身体を反応させる、それがずれ始めると、判定にも狂いが出てきます。身体もついて来なくちゃダメなのです。心も身体も選手に負けます。

西川 博康さんのプロフィール

- 1992年 北海道旭川北高等学校卒業
- 1997年 北海道教育大学旭川校卒業
- 1999年 フットサル4級審判員登録（旭川地区サッカー協会所属）
- 2000年 フットサル3級審判員登録（旭川地区サッカー協会所属）
- 2004年 フットサル2級審判員登録（北海道サッカー協会所属）
- 2012年 フットサル1級審判員登録（日本サッカー協会所属）

常に保つ。週末のゲームに向けて、選手以上の状態を保つために、今日も仕事帰りにジムでトレーニングです。そして、夜中はゲーム分析でDVD鑑賞です。こんな生活を1年で

も永く続けていきたいと思つています。（ちなみに私は、中学校の教員ですので、審判活動も、トレーニングも、勤務時間後、勤務時間外に行っています。道外のゲームに行くと有休もどんどん減つてしまします。でも、やめられません。）

同窓生から

卒業五十年に驚いています



小島 大一郎
(北高14期)

北高同窓会、今年四十八回を迎えます事、誠におめでとうございます。

昭和三十九年卒業の私は今年卒業五十年となり、時の流れの速さにただ驚くばかりであります。卒業してからの五十年は、進学、就労、結婚、親となり、子育て、親を送る等とそぞれの節目は感慨深い事であります。しかしながら卒業してからの五十年よりもっと色濃く鮮明に記憶に残っているのは北高在学中の三年間だったように思うのです。陸上部に入部し、一年生の時陸上インター

ハイが函館で行われた全道大会に八百メートル継走の第一走者で出場することが出来ました。全校生徒参加の壮行会で多くの仲間からいたいた励ましの声に背中を押してもらい、全力で走った事、その結果全国大会の枠に入ることが出来ました。その時の全国大会は静岡で行われ、開会式での入場行進は晴れがましさと誇

らしさで感無量だった事をはつきり記憶しています。当時はホテルでの宿泊は望むべくもなく、宿は静岡市近郊のいかにも歴史ありげなお寺に泊まる事になりました。静岡の地は暑く、当時は空調設備の無いのが普通でしたから、夜はなかなか眠れなく寝返りを繰り返している私に小さな声で「小島、眠り薬だ」と先輩がそつと渡してくれたのはコップ半分ほどのワインでした。それが功を奏したのか訳のわからない音（ウオーガウォー ガオー）を子守唄に眠ることが出来ました。翌朝、子守唄の正体がわかりました。カエルです。



石丸聰子
(旧姓 飯岡)
(北高26期)

北高26期同窓生の皆様

皆様いかがお過ごしでしょうか。私共の年齢、それぞれに様々な人生の局面を迎える、立ち向かっておられるのではないでしようか。私自身、

両親の高齢化に伴い、ずい分と大きな変化となりました。

母を亡くし、実家を処分、今や旭川を訪れる機会は、施設の父への面会のみとなりました。旭川の実家を

◆ 北高14期 小島 大二郎
◆ 北高25期 石丸聰子
◆ 北高51期 久保倉 里美

て下さい」とお願いしたところ「それは大変、うちのお風呂に入つて石鹼で洗いなさい」とお風呂を貸してくださったのです。お礼を言つて帰る時には「明日はしつかり走つてよ」との応援までいただき、やさしさつてすばらしいと感じた事でした。色々思い出の多い陸上部の三年間でした。立派な記録は残せなかつたけれど北高のマークを付けた陸上部の三年間は私の輝く三年間であります。三年間は私の輝く三年間であります。

練習で痛みのある所に筋肉消炎剤を塗り、先輩にマッサージをしてもらつて寺の近くの商店街に皆で出かけた時、いつもはなんとも無いのに薬を塗つた所が異常にチリチリと痛み出したのです。静岡のきつい日差しと高温に皮膚が驚いたのでしよう。どうしようもなく一軒のお店に入り事情を説明し、「ハンカチを濡らし

なくしてみると、想像以上に寂しく、いまだにあの地に在るような錯覚にとらわれます。北高には、学生生活だけでなく、教育実習で、音楽石関先生のもと、(現)東京フィルハーモニーの高野さんと共にお世話になりました。当時の木造の建物ではなく、立派な校舎での実習でした。堀内先生は他校へ赴任前とのことで、島田先生が担当してくださり、堀内先生とは、電話でご挨拶させていたしましたが、その後、赴任先で急逝され、大変驚きました。ですので、先生とお話し出来たのは、同窓生の中で、私が最期であつたかもしれません。高校時代の思い出といえば、とにかく笑いつ放しの日々で、我が家にも、たくさんのセーラー服を着た弁天様達に訪れていただき、父は大喜びで、このヒトは百合の花、バラの花、と、知り得る限りの花の名前をあげつらね、最後に娘の私を見てため息をつき、お前は日陰のタンボポだ、と(笑)。高校時代の事を思い出すことは、さわやかな風のようであり、ほっこりとした陽だまりのようを感じます。皆様とはなかなかお会いすることはかなわないと予想

されますが、いつも心の中に共に居てくださるようで、力とさせていただいております。

現在、二度目の乳癌を回復させるべく、東京にて療養しておりますが、何より健康が基本と、つくづく痛感しております。どうか皆様も、くれぐれも御身体大切に、幸せな日々を送りください。陰ながらお祈り申し上げると共に、素晴らしい思い出と友情を賜り、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



新潟アルビレックス
ランニングクラブ
久保倉 里美
(北高51期)

可能性への挑戦!

「一期一会」という言葉があるように、どんな出会いがその後の人生を左右させるか分かりません。

私は北高で陸上競技に出会い、大切な仲間や先生に出会えたことで自分の可能性がぐんと広がったと思い

ました。たくさんの応援、ありがとうございます。

私が北高を卒業してから、早いもので、10年以上の月日が過ぎました。今もこうして、あの頃と変わらず、陸上づけの毎日を送っていることは、自分を含め誰も予想していませんでした。

私は北高で陸上競技に出会い、大切に挑戦し、課題を少しづつ克服することで、新しい自分を発見できる

今年は8月に、モスクワで世界陸上が開催されます。私も日本代表として走るチャンスを頂きました。4度目となる今回の世界陸上ですが、



私は北高2年生の時に陸上競技を始めました。ですから、旭川北高は正に私の原点です。

しかし、目の前にある小さな目標をひとつずつクリアしていくことで、大きな夢や目標が必然的に近づいています。

オリンピックに出場すること自体、當時は考えたこともありませんでした。

今もこうして、あの頃と変わらず、自分が北高を卒業してから、早いもので、10年以上の月日が過ぎました。今もこうして、あの頃と変わらず、

今年は8月に、モスクワで世界陸上が開催されます。私も日本代表として走るチャンスを頂きました。4度目となる今回の世界陸上ですが、前回よりも良いパフォーマンスを発揮できるよう、精一杯頑張って来た

昨年のロンドンオリンピック出場の際には、久しぶりに北高の校舎を訪れ、在校生に元気いっぱいのエールを頂きました。また、先

生方や同窓会の役員の皆さんにも声を掛けて頂き、懐かしく想うと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。お陰様でロンドン五輪の400mハードルでは予選を突破し、準決勝まで駒を進めることができました。

たくさんの応援、ありがとうございます。

どんなことでも一緒にあります

が、結局は日々の積み重ねでしかないと感じます。

今春の進路状況

進路指導部(全日制)

阿 部 卓

平成二十四年度の卒業生は、単位制導入後、五回目の卒業生になりました。

単位制の進路指導では、一年次より、将来を見据えて、大学で何を学びたいのかを具体的に考えさせることから始まります。また、道内外の大学による進路説明会や出張講義などの実施、オープンキャンパス等への積極的な参加の奨励などが特徴としてあげられます。

この学年は、一年次のときから、足立学年主任を中心に、学習指導、進路指導に取り組み、着実に実力を伸ばしてきた学年です。学年全体の成績をみると、過年度や道内の進学校と比較して、ここ数年間の北高生の平均的な実力を持つ学年でした。また、学年の半数弱が理系であり、ここ数年

同様理系志望者が多いことも特徴でした。

今春の大学入試センター試験では、「数I・A」「国語」で難化したため、多くの国立大学出願に必要な九〇〇点満点の全国平均点が大幅にダウンしました。その結果をうけ、出願校の選定においては、全国的に安全指向・地元指向の傾向がみられ、受験生の慎重な動きが目立ちました。また、本校生においても、同様の傾向がみられ出願校の決定においては最後まで悩む受験生もいました。

本校の最終的な大学入試の結果は、一〇四名が国公立大学の現役合格を果たし、道内の進学校で軒並み厳しい結果となつたなかで、一クラスあたり約一七名と、今年度も高い合格率を維持しました。これは単位制導入以降の平成十八年度から続いています。また、今年度の卒業生は、北京大学の現役合格が六名とやや厳しい結果となりましたが、旭川医科大学医学部医学科に三名が現役合格を果たすなどの健

闘もみられました。

私立大学では、ここ数年の傾向と同様に、中央大学、立教大学、明治大学、青山学院大学、津田塾大学など、研究したい学部のある首都圏の大学や、より高度な研究ができる難関私立大学への進学者も確実に増加しています。下に十年前と比較した表を示しましたが、単位制になつて、現役の国公立大学合格者数が確実に増加しているのがわかります。また、卒業生の進路先では、今年も国公立大学・私立大学を問わず、半数弱の卒業生が道外へ進学するという結果となりました。

北高生が自分の将来の生き方をよく考え、自分に適した進路を選び、それを実現する力を身につけておられるべく、今後も支援してまいります。



平成24年度 進路別人数

卒業生の進路

区分			合計			前年	
			男	女	計		
卒業者数			110	127	237	234	
進学希望者数			110	122	232	233	
進学者数			85	113	198	187	
進学先内訳	大学	国公立	道内	28	25	53	61
		道外	26	19	45	41	
	短大	道内	13	24	37	26	
		道外	16	21	37	37	
大学校等			1	0	1	1	
専門学校	看護	道内	0	7	7	9	
		道外	0	0	0	1	
	その他	道内	1	6	7	9	
就職	公務員		0	3	3	1	
	民間		0	1	1	0	
自営：家事手伝			0	1	1	1	
その他（未定を含む）			25	9	34	45	

国公立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

卒業年度	H13	H14	H19	H20	H21	H22	H23	H24
学級数	8	8	6	6	6	6	6	6
合格者数	90	93	123	125	103	98	106	104
人/クラス	11.3	11.6	20.5	20.8	17.2	16.3	17.7	17.3

難関国立大、医学科合格者数（現役）

大学名	H13	H14	H19	H20	H21	H22	H23	H24
北大（文系）	1	1	4	9	8	7	2	3
北大（理系）	10	5	8	13	6	8	12	3
旭医大（医）					2	1		3
東北大	1				2		3	
筑波大		2	1	1	1	1		
一橋大					1	1		
東京外国语大					1			1
名古屋大								1
京都大					1	1		
大阪大					1			
神戸市立大				3	2	4		
公立大計	146	116	115	130	125			



・13部活動報告

・野球部

現在野球部は、総勢43名で活動しております。早いもので2004年の甲子園出場から9回目の夏がやってきます。なんとか先輩方の築かれた輝かしい歴史に追いつき追い越そうと部員一同心を一つに日々頑張っておりますが、なかなか期待に応えられず申し訳なく思っております。今年のチームはレギュラーに1年生が2名、2年生が4名という若いチームではありますが、あくまでこの夏に照準を合わせてやっております。一戦一戦、苦しみながらもなんとか勝ち抜いていく決意です。そして、多くの先輩方に球場で、新聞紙上で、あるいはネット上で、何度も喜んでいただけるよう頑張つて参りますので皆様の応援をよろしくお願いいたします。

・ソフトテニス部

ソフトテニス部の活動について、簡単なご報告させていただきます。ここ数年、他校も含めて、ずっと続いている傾向なのですが、中学までやってきたテニスを続ける生徒が減ってきたように思います。今年も経験者全員に声をかけましたが、なんとか4名の新入部員を迎えるにとどまっています。3年生は元からいるのですが、これまで今までの伝統を引き継いでがんばりたいと思います。温かく見守つて下さい。どうぞよろしくお願ひいたします。

団体戦：予選リーグ敗退
×旭川北 1-2 東川

個人戦：高見・津辻組 3回戦進出
下間山・多田組 3回戦進出

・テニス部 男子

旭川北高テニス部男子は、現在3年生7名、2年生14名、1年生17名の計38名で活動しております。非常に大所帯になり、練習場所や練習内容に悩まされる毎日ですが、テニスが好きだという気持ちのものつ部員が多いので、少しでもその気持ちに応えてあげられればと考えています。夏の大会では全道出場の夢を絶たれましたが、3年生の悔しさを1・2年生がしつかり受け止め、秋の大会に向けて地力を付けています。壁は高いですが、部一丸となつてその壁を乗り越えていけたらと思つています。

・テニス部 女子

テニス部は新チームに移行し、11名で活動しています。今年は新入部員が多く、練習内容はよりいっそう工夫が必要になるといううれしい悲鳴をあげています。ほとんどが初心者であり、基礎・基本から身につけなければならず、時間もかかりますが、そのぶん成長する様子が実感できますが、そのぶん成長する様子が実感できます。

花咲テニスコートがすぐ近くにあるという地の利を生かし、技術はもちろんのこと、メンタル面の強化も意識し、困難に果敢に立ち向かい、逆境にも動じない人間に成長してもらいたいと考え、生徒達を指導しています。

・男子バレー部

昨年度の高体連支部大会では、決勝リーグで旭川工業高校と全道大会をかけた試合になりましたが、あと一步のところで2-1で負けてしまいました。今年度に入つてからは、拾つてつなぐバレーで着実に力をつけてきました。高体連では、見ている人

たちに感動を与えることができる内容で、旭川実業高校の次に第2代表として3年振りに全道大会に出場することができました。

(大会結果)
高体連後は7名の選手となりますが、さら

に上を目指して頑張っていますので、今後の活躍に注目していただきたいと思います。

◇バレーボール祭

1回戦 旭川北 1-2 旭川工業

2回戦 旭川北 2-1 旭川明成

3位決定戦 旭川北 1-2 富良野

準決勝 旭川北 2-1 富良野

決勝トーナメント戦 旭川北 2-1 旭川工業

◇高体連旭川支部予選会
予選グループ戦

旭川北 2-1 富良野

旭川北 2-0 旭川凌雲

旭川北 2-0 旭川凌雲

旭川北 1-2 工業

第3位 第2位で全道大会出場

平成25年度
第66回北海道高等学校サッカー選手権大会
旭川支部予選大会結果

3年生のほとんどは、今大会でサッカー部を退してしまいますが、このチームに残してくれたことはたくさんあります。そういう物を大事にしながら、また新たなメンバーと一緒に、新しい北高サッカー部を作ります。

・サッカーボール部

サッカーボール部は3年生の多くが抜けた後、現在1年生14人、2年生21人、マネージャー14人の合計39人で日々活発に練習しています。高体連では3回戦で旭川凌雲高校に惜しくも敗れてしましましたが、最後まであきらめることなく、持てる力を出し切つて戦いました。しかし、負けたと言うことは、まだまだ足りないところがたくさんあります。高体連では3回戦で旭川凌雲高校に

現年1年生14人、2年生21人、マネージャー14人の合計39人で日々活発に練習しています。高体連では3回戦で旭川凌雲高校に

・卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、男子学校対抗戦で3年連続の全道出場はなりませんでしたが、男子ダブルスで全道出場権を獲得しました。女子学校対抗戦は第三位に入賞しました。なお、全道大会は本校が当番校で6月18日～21日、旭川市総合体育館で行われます。

○高体連旭川支部予選結果
・男子ダブルス

旭北 3-2 旭東栄

旭北 1-3 旭高専

・女子ダブルス

船木・富田 5位

旭北 0-3 旭実

・女子ダブルス

旭北 0-3 旭商

・バドミントン部

バドミントン部は男子11名、女子16名の計27名で活動しています。男女ともに仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、顧問の先生をはじめ、大学生やOB・OGの皆様など多くの方々の応援と支えをいただき、新人戦全道大会では男女ともに団体戦出場を果たし、男子団体ではベスト8にという結果を残すことができました。また、高体連全道大会では男子団体および男女個人戦に出場することができました。

今後も、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指して、みんなで切磋琢磨して日々努力していきたいと思います。

【おもな大会結果】

◇ 北海道高等学校新人大会

平成25年1月11日～14日	旭川市	男子団体
		1回戦敗退
		ベスト8
		2回戦敗退
		3回戦敗退

◇ 国民体育大会北海道予選会	函館市	女子団体
平成25年5月10日～12日	函館市	女子団体

◇ 高体連旭川支部大会	旭川市	男子団体
平成25年5月28日～30日	旭川市	男子団体
	第3位	男子団体
	第3位	男子団体
	ベスト8	男子団体

女子団体	根津・鈴木	男子団体	根津・佐々木	女子団体	岡田・高田	男子団体	岡田・高田	女子団体	高田・佐々木	男子団体	高田・佐々木	女子団体	高田・佐々木	男子団体	高田・佐々木
------	-------	------	--------	------	-------	------	-------	------	--------	------	--------	------	--------	------	--------

・ソフトボール部

私たちソフトボール部は、高校から始めた初心者が多いですが、旭商を破り、全道大会に出場することを目指に、チーム一丸となって練習に取り組んできました。去年の夏から秋にかけては、練習試合などの実践が多く、冬には毎日階段や廊下を走り続け、バットを振り、筋トレなどの体力づくりを中心に取り組んできました。今年の1年生が入ってからは、人数が増え、普段の練習ではより実践に近い内容になりました。全ては、打倒旭商・全道大会に出場のために辛い練習も乗り越えてきました。

そして迎えた高体連。守備の面では、初回三者連続三振を奪つたり、相手にチヤンスを作らせて、毎日の練習で身に付いた自信でそのピンチを切り抜けるという場面もありました。攻撃の面では、繋ぐバッティングで部員全員が力を合わせて点数を取ることができました。結果は、残念ながら敗北に終わってしまいました。しかし、最後まで決して諦めない3年生の姿、チームを盛り上げて、一人ひとりを励ましていた3年生の姿は今も忘れられません。私たち一年生は引退した3年生から、最後まで諦めずに立ち向かっていく心と、どんなに辛い場面でも負けない強い心を教わりました。

三年生が引退してしまった今、新チームとしてまた新たなスタートを切りました。技術面でも精神面でも一年間先輩から教わったたくさんのこと、最大限生かして行きたいと思います。新人戦、そして来年の高体連のために毎日の練習を無駄にせず、一人ひとりが向上心をもつてレベルアップしたいと思います。また、応援してくれて

岡田

3回戦敗退

◇ 第65北海道高等学校選手権大会

男子団体	北北海道	1回戦敗退
女子団体		2回戦敗退
女子団体	高田	2回戦敗退

・剣道部

現在剣道部は男子12名で活動をしています。通常は基本の打ち込みを中心に関じて練習に取り組んできました。去年の夏から秋にかけては、練習試合などの実践が多く、冬には毎日階段や廊下を走り続け、バットを振り、筋トレなどの体力づくりを中心に取り組んできました。今年の1年生が入ってからは、人数が増え、普段の練習ではより実践に近い内容になりました。

今年の剣道部は「男子団体全道出場」を目指し支部大会に挑みました。予選リーグでは2敗し、苦しい戦いの連続でした。6年ぶりの地区大会優勝を勝ち取り、念願の男子団体全道出場を達成することができます。現在は全道大会上位進出を目指して日々努力している真っ最中です。2年的新チームで、新人戦に向けて、正に強化練習のまつた中であります。炎天下のもと、直向きに走り続けている、そのため普段の生活が剣道修得の第一歩と指導しています。

今年の剣道部は「男子団体全道出場」を目指し支部大会に挑みました。予選リーグでは2敗し、苦しい戦いの連続でした。6年ぶりの地区大会優勝を勝ち取り、念願の男子団体全道出場を達成することができます。現在は全道大会上位進出を目指して日々努力している真っ最中です。2年的新チームで、新人戦に向けて、正に強化練習のまつた中であります。炎天下のもと、直向きに走り続けている、そのため普段の生活が剣道修得の第一歩と指導しています。

今年の剣道部は「男子団体全道出場」を目指し支部大会に挑みました。予選リーグでは2敗し、苦しい戦いの連続でした。6年ぶりの地区大会優勝を勝ち取り、念願の男子団体全道出場を達成することができます。現在は全道大会上位進出を目指して日々努力している真っ最中です。2年的新チームで、新人戦に向けて、正に強化練習のまつた中であります。炎天下のもと、直向きに走り続けている、そのため普段の生活が剣道修得の第一歩と指導しています。

今年の北高陸上競技部は、総勢39人と、道内でも有数の規模で活動しています。人口多さもさることながら、選手一人ひとりの士気も高く、5月に行われた高体連旭川支部大会では、男子が数十年ぶりに、堂上の総合優勝を果たすことが出来ました。また、女子も、少人数ながら、総合5位と高め合つて、そなソフトボール部であります。これからも全力で練習し、お互いを高め合つて、そなソフトボール部であります。

・陸上競技部

今年の北高陸上競技部は、総勢39人と、道内でも有数の規模で活動しています。人口多さもさることながら、選手一人ひとりが向かっています。また、応援してくれて

・男子個人

男子個人	長村	第3位
		6／17～6／21 湿原の風アリーナ釧路
男子団体	予選リーグ3勝2敗で、予選リーグ敗退	
男子個人	長村（3・3）2回戦敗退	

・女子バスクケットボール部

私は、現在二年生七名、一年生十四名、マネージャー二名で足立先生の指導の下で活動しています。高体連では、三位決定戦で延長の末、東栄高校に敗れてしましましたが、三年連続ベスト4に入りました。チームは昨年より力、技術に劣りますが、走れるチームを目指してがんばります。そして来年の高体連では次の代へシードをつけ、昨年よりも良い成績を残せるよう精一杯頑張ります。

・バドミントン部

平成二十四年度成績

○キシイカツブ

○選抜旭川予選

第三位

第三位



- 秋季大会 一回戦敗退
 ○全道新人旭川予選 二回戦敗退
 ○旭川地区春季大会 二回戦敗退
 ○高体連旭川支部予選 第二位(全道出場)
- 山岳部
 山岳部は現在男子8人、女子2人、顧問の先生2人でにぎやかに活動しています。平日には天気図を書いたり、山登りの準備をしたりして、土日に山に登っています。山登りでは、四季折々の景色や山頂にたどり着く達成感を感じたり、夏にはバーベキューをしたり、冬には尻すべりをしたり、山を登つた後は温泉に入つたりと、山を堪能しています。
- 今年の地区大会では、前年度に比べてどの参加校も一年生が多く入つたこともあり、大変にぎやかな大会となりました。また、北高も一年生が多く入つた為、男子B隊も組むことができ、一年生に大会を経験させることができました。大会の結果は、北高的男子A隊が優勝し、全道大会に3年連続で出場することができました。女子は人数が足りず研修としての参加となってしまいましたが、来年は新入生を迎えて、一緒に大会に出場したいと思います。全道に出場するA隊はいい結果を残せるよう、全力を尽くしつつ、全力で楽しんでいます。

●アーチェリー部

アーチェリー部は3年男子9名、2年男子4名・女子2名、1年男子3名の19名で活動しています。

6月12日～14日に高体連全道大会がキロ

ロリゾート森の広場で行われました。女子が2名のため、昨年度に引き続き女子団体は不参加でした。女子部員の入部を勧めていきたいと思います。

男子団体は予選を5位で通過し、決勝トーナメントで初戦の札幌啓北商業高に快勝しました。その後、準決勝で帯広工業高に対し、敗れ、3位決定戦では帯広工業高に対し、最終エンドで逆転され、敗れました。個人

戦では、男子2名、女子2名が決勝トーナメント進出しました。男子は2名とも初戦で女子は2回戦で敗退しました。今年も全国出場にはなりませんでしたが、生徒は最後まで全力を尽くしていました。この大会で数年前から課題である精神面での弱さがあり、大事な場面でミスが目立ちました。精神面で強化をし、全国大会に進出することを決意し、現在、練習に励んでいます。高体連が終了し、2年生が中心の部活動になります。現在、旭川アーチェリー協会の方々が生徒の指導にご尽力をいただいております。

新体制で、まずは9月に行われます秋季大会を目標に取り組んでいます。シングルアウトドアターゲットラウンドですので、1年生にとっては、厳しい大会となります。が、早く、70m、90mが打てるようになります。いきたいと思います。

●少林寺拳法部

昨年度は今年3月の全国選抜大会の女子単独演武に滝本が出場し、予選を通過できませんでしたが、北海道の代表として立派な演武を披露しました。

今年度は一年生10名を加え、男子15名・女子8名の計23名で活動しています。女子は6月の高体連全道大会で、全国大会への出場こそ逃したものの団体で3位になっています。新人戦では男女ともに全国大会に

出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思います。

高体連全道大会(6月15・16日 札幌)結果

(男子)
団体演武 祐川③・森③・星野③・

細野③・柴田②・守山②・

山田②・武田①組

森③・星野組

本戦出場

組演武 (女子)

宮内③・渡部③・滝本③・

佐々木②・高瀬②・山上②・

開①・仲川①組

宮内③・滝本③組

三位

戦では、男子2名、女子2名が決勝トーナメント進出しました。男子は2名とも初戦で女子は2回戦で敗退しました。今年も全国出場にはなりませんでしたが、生徒は最後まで全力を尽くしていました。この大会で数年前から課題である精神面での弱さがあり、大事な場面でミスが目立ちました。精神面で強化をし、全国大会に進出することを決意し、現在、練習に励んでいます。高体連が終了し、2年生が中心の部活動になります。現在、旭川アーチェリー協会の方々が生徒の指導にご尽力をいただいております。

新体制で、まずは9月に行われます秋季大会を目標に取り組んでいます。シングルアウトドアターゲットラウンドですので、1年生にとっては、厳しい大会となります。が、早く、70m、90mが打てるようになります。いきたいと思います。

昨年度は今年3月の全国選抜大会の女子単独演武に滝本が出場し、予選を通過できませんでしたが、北海道の代表として立派な演武を披露しました。

今年度は一年生10名を加え、男子15名・女子8名の計23名で活動しています。女子は6月の高体連全道大会で、全国大会への出場こそ逃したものの団体で3位になっています。新人戦では男女ともに全国大会に

出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思います。

高文連上川支部音楽発表大会 高文連上川地区予選

北海道吹奏楽団体コンクール 吹奏楽発表部門

旭川地区予選 参加

第37回定期演奏会主催 第10回トリニティ・コンサート主催 東川町ぐらし生き生きフェスティバル

フルート独奏 トロンボーン独奏 クラリネット五重奏 サキソフォーン五重奏

銀賞 金賞 金賞 金賞

高等学校A編成の部 銀賞

北海道個人・アンサンブルコンクール

旭川地区予選

フルート独奏

トロンボーン独奏

クラリネット五重奏

サキソフォーン五重奏

銀賞 金賞 金賞 金賞



北高祭、卒業式にて演奏

今年度から美術部顧問は水本先生が転勤され、板谷諭使となりました。よろしくお願いします。今年の部員は3年生1人、2年生3人、1年生4人で活動しています。人数は少ないですが、全員熱心に活動しております。色彩、水彩、CGのジャンルで質の高い作品作りを目指しています。放課後の美術室は部員以外に美術大学志望生徒3名がデッサンに取り組んでおり、活気があり、よい刺激となっています。

今年の活動は5月、高文連上川地区実技研修会に参加し大学の先生から実技を通して様々な技法を学びました。現在は高文連へ向けての作品を制作中ですが、それぞれ自分の描きたいモチーフを探し、個性豊かな作品作りに取り組んでいます。また、今年も北校祭ポスターやロゴに個々で応募し、全校投票により3年生山川圭介君の作品が



採用されました。今後は、道立旭川美術館で行われる造形まつりボランティア、東北芸術工科大学デザイン選手権への応募、道展U21への出品と、年間を通して忙しくなりますが、学業と両立しながら活躍することを期待しています。

●音楽部

部員数30名以上ですが、活動場所が狭いので、活動も思うようにできないのが悩みです。軽音楽部として、主にJポップなど曲を演奏しています。演奏機会としては学校祭、図書室コンサート、クリスマスコンサートなどです。また学校祭のテーマソングも作っています。学校祭を盛り上げるために一役買っています。

●書道部

今年度は、三年生二人、二年生五人、一年生六人で活動しています。現在は、高文連に向けて、各自作品制作に没頭しています。

大会がない時期は、書道教室で日々と作品を書いていたり、好きな字体を模索し練習したりしています。また、勉強との両立を目指し、苦手科目を教え合ったり、自習したりしています。

昨年から積極的な活動の促進のため、「全紙の日」を毎月定め、新しい事への挑戦の心を絶やさないようにしています。その反面、書道部の伝統である自由な雰囲気は部員全員が気に入っているので、これらも守り続けたいと思っています。

今後も書道部は、充実した部活動を築くために、伝統と挑戦を大切にして一生懸命活動していきます。

●演劇部

「いい芝居を作りたい」とだけ考えていましたが、良い芝居を作りたいと思いつています。新入部員の三人の女の子達も意欲的に過ごしています。先月の合同公演では、三年生三人と二年

生ひとり、それぞれキャストとして活躍していました。年明けの一月の「たかす三分間劇場」では、昨年度に続き賞をいただいたのですが、私中村は三年の担任ということを期待しています。

こんなにできるようになったのだろうか、流石に伸び盛りの高校生です。

今年も自分たちの芝居を書いて、それを演じるということになります。困難な道ですが、生徒も顧問も、その方が柔軟に動けていいようです。作品が深まりにくいう欠点はないわけではないですが、それと自己満足から抜け出すのが難しいといった欠点はありません。が、形のなかつた段階から、おぼろげながら輪郭の一部が見えてきて、気がついたらひとまとまりになつていて、それを「エイツヤツ」と破壊して、そこから新たな世界を構築する喜びを知つてしまつたようです。

どうなるか不安は付き纏いますが、なんとか仕上げていこうと、生徒も顧問も藻搔き続けていきます。

●華道部

現在、一年生六名、二年生三名の計九名で毎週水曜日に活動しています。

少ない活動ながら、立岩先生のご指導の下、一人ひとりが着実に上達しています。また、学年を問わず仲が良く、部内は和やかで明るい雰囲気です。

稽古後は生けたお花を生徒玄関に展示していきます。

「きれいですね」とお声をかけていたたくさんの方々にご覧いただいています。

こともあり、さらなる上達へ励みたいと思つています。

学校祭では稽古の成果を発揮するために、いつも以上に団結して、展示を創り上げます。

今年も浴衣を着てご案内し、また希望者は華道教室も開催します。ぜひご来場ください。

●インター・アクト部

私たちインター・アクト部は、旭川北口タリークラブのご支援のもと、ボランティア活動を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

インター・アクトは、インター・ナショナル・アクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通じ

ただいて、展示を通して日本の美しい文化に触れていただきたいと思つています。また、インターネット花展への出品等、校外にて引続き、今年度もお世話になる芳野先生にお任せしたので、部員達の演技を本番で見たのは、本当に久しぶりでした。

このように私たちには、先輩方から受け継いだ旭川北高華道部と日本の華道の精神を守り続け、また、未来の後輩に伝えているうと思います。

●茶道部

今年度、一年生の入部は四名（男子部員の入部はなし）のみとなり、二年生十一名、

三年生二十三名、計三十八名で活動しています。月曜日は技芸講師の立岩先生のご指導のもと稽古に励んでいます。木曜日は自己練習で、三年生が中心となり基本練習の席入や帛紗さばき等の割稽古を行っています。五月には、同門会の春の茶会に、部員十七名が参加しました。

七月の学校祭は、日頃の活動成果を披露できる唯一の場です。五月から北高祭のお茶会に向け、より上達したお手前を披露するため日々が時間をみつけてはお手前練習に励んでいます。

三年生は七月で引退し、八月からは二年生が中心となり部活動が行われます。三年生が抜けますと、人数的には少し寂しい状況にはなりますが、一年生と共に歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いでくれることを願っています。

これからも茶道を通して礼儀作法や人を中心もてなす精神を学び、心豊かな人間にになれるよう稽古を積んでいきたいと思います。

旭川市障害者週間記念事業参加

・あつたかいねあさひかわ

・おびつた祭り参加

・障害者スポーツ記録大会

・旭山動物園障害者と家族動物園特別鑑賞サポートボランティア

・あしなが学生街頭募金活動への参加

・FNSチャリティーマ基金活動実施

③地域との関わり

・旭川市障害者週間記念事業参加

・春季・秋季ごみのポイ捨て禁止運動への参加

・校舎内の清掃

・春季・秋季ごみのポイ捨て禁止運動への参加

・旭川冬まつり会場跡地の清掃活動

①美化活動

活動内容は次の通りです。

（1）ボランティア活動に取り組んでいます。

（2）地域社会に貢献することを目的としている

（3）毎週の定例ミーティングで「自分の

（4）部員同士で相談しながら活動を行います。

今年度は一年生三名、二年生一名と計四名の意欲あふれる新入部員を迎える、一年生三名、二年生六名、三年生一名の十名（全員女子!!）で活動しています。

女子十名の個性豊かなメンバーで、リレーショナル・アクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通じ評を行つたりと、意欲的に活動中です。み

んなが部室に集まる機会も今年は多くなりました。現在は、七月に発行する『玉響17号』に向けて、各々創作中。六月第四週から編集に入ります。卒業した先輩からの寄稿もあつて充実した部誌になりそうです。今年度は上川支部研究大会の当番校に当たります。井上靖記念館での研究・当校の枠を超えた仲間と刺激し合える手ごたえのある研究会を目指して、計画中です。

○高文連上川支部 文芸コンクール
詩部門 優秀賞 高田実穂・岡本美月
小説部門 佳作 高橋実奈
部誌部門 全道大会推薦 → 全道銀賞

●理科実験研究部

ここにちは。まず始めに部員構成を紹介します。今年新たに一年生五人が加わり、三年生が一人、二年生が四人の合計十人となりました。大人数となり、いつも楽しく明るい雰囲気が流れています。

次に活動内容を紹介します。一年生は基礎実験、二、三年生はグループを作り、今秋の大会に向けて研究と実験を続けています。今年はサリチル酸のアセチル化における収率の向上に関する実験を取り組んでいます。

長期休暇中には、校外で公開実験と展示を行います。毎年夏にはシリコンセンターで、冬には青少年科学館で実験をさせていただいています。大勢の方の前で実験をしたり、説明をしたりするのは大変ですが、同時にとても貴重なことですので、その経験を大切にしていきたくです。

右も左もわからない一年生だった僕も気がつけばあと一年と経たずに引退となりました。直接お世話をいたいた先輩方はもちろんのこと、先代の先輩が残してくれたものおかげで大いに助けられてきました。僕もこの理科実験研究部の一員として、多くのものを後輩に残していくたいで

す。

●放送局

発声練習の声が徐々に逞しくなつてくると、大会が近づいてきたというしるし。日頃は放送室に閉じこもりつきりのおとなしい生徒たちが、カメラや照明機材を抱えて校舎の周りに出ていくと、ドラマの撮影のしるし。

普段はおしゃべりばかりしている生徒がコンピューターの前でじつとし出したら、番組の編集が佳境にあるしるし。

毎年同じように時間が過ぎて、毎年同じよ

うに地区大会に勝つて、そして、毎年同じように全道大会に進出している本校放送局ですが、今年こそはと番組・個人の両部門で東京を目指しています。

本校の放送局は個人の発表の水準が地区随一レベルで、番組部門でもドキュメント番組の水準が常に全国大会レベルであるため、春になると、生徒は毎日を忙しく過ごすことになります。

地区大会の当番校だった昨年、地区全体の個人レベルの向上が将来本校をさらにつくれると考え、8月に地区でアナウンス技術講習会を開きました。そのため、各校のアナウンスのレベルが向上し、今年の地区大会では一年生がほとんど敗退しました。

今や、地区代表となつた本校の5人の生徒にかかる期待は大きく、それに負けないよう必死に準備を進めています。番組部門でも、新聞で報道されたように「尊厳を設けて欧米文化紹介なども特集していく。その甲斐あってか平成23年度の北海道高等学校新聞コンクールでは奨励賞をいたしました。最近は学校行事の他に、「生徒総会のあり方を考える」「地元の魅力を紹介」「スマートフォンの使用について」などの特集記事を書いて生徒に身近な問題に気づかせるような新聞の発行を心がけています。

新聞の定期的な発行を始めてから現在で4年目。顧問と生徒も新聞作りを一から学びながら製作に取り組んでいます。研修会に参加して指導を受けたり、他校の新聞に学びながら、前回よりもさらによいものを目標に現在も活動中です。今後も校内外の

ファインダー越しの世界を自分の思いが伝わるように切り取る難しさを感じたり、指していきたいと思っています。どうかよろしくお願ひします。

青春の一コマをどうやつたらPhoto（ホット）まま伝えられるのか日々考え、シャッターを切っています。

また、文芸部との合同作品を通して、自分の作品の良さや改善点を見つけたり、新しい世界に気がついたりするのも楽しみの一つです。

今後の活動がより活発になることを期待しています。

●新聞局

新聞局の局員は現在4名。各学年1・2名からなる小さな部です。少人数ではありますが、これまで主に学校行事を中心記事にして多くの新聞発行を重ねてきました。いつも取り上げている内容は「校内英語スピーチ大会」「見学旅行」「入学式」「部活動紹介」「学校祭」などです。また、校内で頑張っている人がいるなら、みんなにも目を向けて欲しいということで、海外から「交換留学生」や部活動で「目立った成績を残した生徒」にスポットを当てて紹介する記事も書き始めました。さらに英語教育に力を入れている本校の特色を生かしてALT（外国人指導助手）にBite・Size Englishというコーナーを設けて欧米文化紹介なども特集していく。その甲斐あってか平成23年度の北海道高等学校新聞コンクールでは奨励賞をいたしました。最近は学校行事の他に、「生徒総会のあり方を考える」「地元の魅力を紹介」「スマートフォンの使用について」などの特集記事を書いて生徒に身近な問題に気づかせるような新聞の発行を心がけています。

最近では、すっかり定着した感のある「クリスマスイベント」を年末に行っています。音楽部や吹奏楽部と協力しながら、放課後の一時をクリスマスムードたっぷりに演出するという企画です。

伝統ある北高の生徒会活動を一層良いものにすべく、日々がんばっています。今後も北高祭はじめ様々な場面で同窓会の皆さんのお力を借りる場面があると思います

話題を新聞記事にして面白い新聞作りを目指していきたいと思っています。どうかよろしくお願ひします。

●生徒会

北高の生徒会は生徒による主体的な運営を目指して様々な活動に取り組んでいます。新学期が始まって7月の北高祭までは生徒会行事が目白押しです。4月の対面式、新生入生歓迎会では各部活動紹介がおこなわれますが、スムーズに進行させるため、春休みから入念な準備をしてきました。そのおかげで今年は予定どおり進めることができました。また生徒総会では総会資料の作成、印刷するのに時間がかかりました。5月のリーダー研修会では、北高祭の原案作りのために、しっかりと時間をかけ、議論することができます。壮行会では、司会、運営をすべて生徒会で行い、多少ぎくしゃくしたところはありますが、なんとか進めることができました。それからの行事の準備のために放課後遅くまで残つて、打ち合わせやリハーサルそして休日には会場設営と時間が抜く時間がないほどです。しかし、行事が終わつた時には達成感と充実感が待っています。さらに、自分たちが「楽しむ」ことでもらうのが私たちの目的です。そのための苦労は惜しまず、これからいよいよ始まる北高祭に向けて準備を進めていこうと考えています。

最近では、すっかり定着した感のある「クリスマスイベント」を年末に行っています。音楽部や吹奏楽部と協力しながら、放課後の一時をクリスマスムードたっぷりに演出するという企画です。

伝統ある北高の生徒会活動を一層良いものにすべく、日々がんばっています。今後も北高祭はじめ様々な場面で同窓会の皆さんのお力を借りる場面があると思います

実行委員長・次期当番期あいさつ

当番期 あいさつ



第48回同窓会実行委員長

北高37期 高田 和憲

次期当番期 あいさつ



第49回同窓会実行委員長

北高38期 武田 要

私たち三十七期が当番幹事期となつてからおよそ1年、これまで同窓会本部役員の皆様を始め、三十六期の諸先輩方、そして会券販売・広告掲載のご協力をしていたいた多くの皆様方等には、事あるごとに励ましと支えをいただきながら、今日この日までようやく準備を進めて参ることことができました。紙面にて失礼と存じますが、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今年の同窓会開催にあたり、昨年の同窓会当日に集つた約十五名の級友と共に準備委員会を発足し、九月の先輩からの引き継ぎをいただいた後、各係の割当の決定と協力依頼を行ひ、少しずつ輪を広げ、和を広げて準備を進めてきました。

年が明けて当番期の結束を強めるべく、一月には六十余名の級友が集つての同期会、六月には東京、札幌、旭川同期会の同日開催を行い、旭川と離れて生活している仲間、二十六年ぶりに再会した仲間との懐かしい話に花を咲かせました。

今回のキヤツチコピーは「会えてよかったです。」と紹介されました。

「」です。先が見えず、ただ不安と焦りの中でスタートした当番幹事期としての準備も、少しずつ広がつてきました同期の輪、そして多くの先輩方とのつながり、励ましを再確認、再構築しながら進めることができました。

改めて自分たちに同窓という強い絆があることを実感し、「会えて良かった。」という感謝の思いから、そして北高同窓の絆を大切にし、これからもその絆を繋いでいきたいという思いから、今回はこのキヤツチコピーとさせていただきました。

本日の同窓会が皆様にとって思ひ出深いものになりますよう、会えて良かつたと感じていただけますよう、三十七期一同、精一杯がんばつてしまりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、我が母校である旭川北高並びに旭川北高同窓会のますますの発展と、旭川北高同窓生と在校生のますますのご健康、ご活躍を心から祈念いたしまして、当番幹事期を代表してのご挨拶とさせていただきます。

気が付けば四十四歳。北高を卒業し、「昭和」から「平成」にかわつて、もう二十五年も経っているわけでした。

私たち三十八期は、昨年と今年の正月に同期会を開催しました。同期会と言つても、短期間に声をかけられる仲間が集つたという程度のものでしたが、三十名程が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。

卒業した頃は連絡を取り合つていた同期とも互いに家庭ができたり仕事が忙しくなつたりで、連絡のやり取りが少なくなり会う機会も少なくなっていました。久々に会い、それ相応に年をとつた顔を見て、時の流れの速さを感じるばかりでした。高校生の頃には話をしたこともない同期とも、なぜか気軽に懐かしい気持ちで話ができるようになつたのも、やはりそれ相応に年齢を重ねたからだと思います。

私の北高での思い出と言えば、勉学と言いたいところですが、残念なことに勉学に勤しんだのは卒業後の

浪人した一年間だつたと思います。しかし、「昭和」から「平成」にかわつて、もう二十五年も経つていて、もう二十五年も経つているわけでした。

私たち三十八期は、昨年と今年の正月に同期会を開催しました。同期会と言つても、短期間に声をかけられる仲間が集つたという程度のものでした。花咲グラウンドでの練習後のジムと対戦し、負けそうになつたことを言つても、短期間に声をかけられたが、三十名程が集まり、楽しげなダンス。間近で見る花火に歓声を上げていたこと。もちろん、日常の些細な出来事の中にも懐かしい思い出がいくつもあります。

さて、来年の同窓会に向けて私たち三十八期はより多くの同期との再会を果たし、準備に取り組んでいくことになります。その中で、絆をより強いものにし、そこでの再会がその後の人生に大きな意味をもつものと信じています。諸先輩の皆様には、今後とも御指導のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、旭川北高同窓会と母校の益々の御発展を祈念いたしまして、次期当番期を代表しての御挨拶とさせていただきます。

窓会と母校の益々の御発展を祈念いたしまして、次期当番期を代表しての御挨拶とさせていただきます。

窓会と母校の益々の御発展を祈念いたしまして、次期当番期を代表しての御挨拶とさせていただきます。